

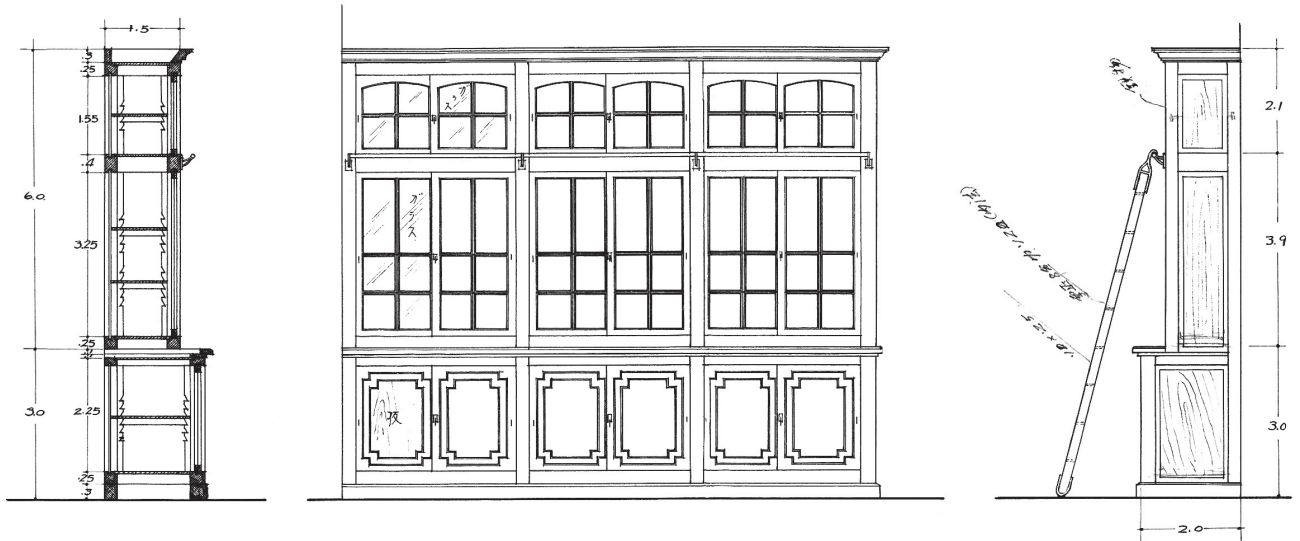


The Kyushu University Museum

# NEWS

九州大学総合研究博物館ニュース

n°  
27



March

2017

## 今後の歴史的備品再生プロジェクトと博物館の新展開に期待！

約4年前に始まった「九州大学歴史的備品再生プロジェクト」、  
 廃棄物を見つけてはレスキューを繰り返してきた経験が生かされ、昨年9月に移転した理学部から  
 約500点の回収に成功し、これからの分を加えると1,000点以上のコレクション数になる。  
 この貴重なコレクション集めに参加できたことに感謝、今後の博物館の新展開に期待、  
 そして次期館長へのバトンタッチ！！

総合研究博物館第7代館長

吉田茂一郎



## 催事・展示クローズアップ

I

### 平成28年度九州大学総合研究博物館公開展示 九大百年 美術をめぐる物語

期間：2016年10月8日(土)～11月13日(火)  
場所：メイン会場／福岡県立美術館(須崎)  
サテライト会場Ⅰ／九大博物館(箱崎)  
サテライト会場Ⅱ／九大医学歴史館(馬出)  
担当：三島 美佐子 開示研究系・准教授

今年の公開展示は、福岡県立美術館との共催でした(4ページの記事もご参照ください)。当館常設展示室の公開展示コーナーでは、中山森彦の弟である考古学者・中山平次郎の資料、戦前の九大研究者らによる科学描画と図版を展示、4階会議室の青山熊治壁画も週末公開いたしました。馬出の医学歴史館ではムラージュを展示し、医療関係の方を含めたくさんの方にご来場いただきました。



福岡県立美術館の展示室前でのオープニングセレモニー

4階会議室の青山熊治壁画は、九大の美術作品として名実共に最大級の目玉でしたので、人文科学研究院の後小路先生に監修いただき、解説動画を作成しました。担当者も今回の展示に携わることで、壁画に込められた熊治の思いや、当時の先生方の美術への思いを知ることとなり、よい勉強になりました。

COLUMN

館員活躍録

## Nature Communicationsに 論文が掲載！ —白亜紀における ハネカクシ科甲虫の社会寄生の可能性—

担当：丸山 宗利 開示研究系・助教

私の教え子の山本周平君の研究成果がNature Communicationsという国際誌に掲載されました。彼は現在博士3年生で、農学研究院に所属して昆虫の分類学を専攻していますが、基礎科学の極みともいえるこの分野として、この雑誌に掲載されたことは快挙と言えるでしょう。

ハネカクシ科に含まれる甲虫のなかには、アリやシロアリという社会性昆虫の巣に寄生する種が多数知られています。今回、9900万年前(白亜紀)のミャンマー琥珀に見つかったハネカクシ科甲虫の化石を検討したところ、そのような生態を持つものである可能性が示されました。アリやシロアリの起源はその少し前とされており、それら社会性昆虫が現れた直後から、このような寄生性の昆虫が出現したことが示唆されました。

主著者の山本周平君は学部1年生のときから私の研究室に出入りし、研究を開始しました。



今回見つかった化石  
(新属新種 Mesosymbion compactus)



山本周平君

今回の論文は、幸運に恵まれたこともありますが、間違いなく彼の努力の結晶の一つです。山本君はこの3月に博士(農学)の学位を取得し、来年度からは日本学術振興会海外特別研究員としてアメリカに留学することも決まっており、将来が楽しみな若手研究者です。

原著論文 Shūhei Yamamoto, Munetoshi Maruyama & Joseph Parker (2016) Evidence for social parasitism of early insect societies by Cretaceous rove beetles. Nature Communications 7, Article number: 13658.



# Close-up Event & Exhibition

## II 平成28年度公開講演会&連動ミニ展示 SPレコードと蓄音機の魅力

—田村悟史コレクション初披露目—

<公開講演会>

期間：2017年2月4日(土)13時～17時30分

場所：旧工学部本館1階 大講義室

<連動ミニ展示>

期間：2017年2月1日(水)～

場所：常設展示室

担当：三島 美佐子 開示研究系・准教授

「田村悟史コレクション」は、故・田村悟史氏(1940-2009)が収集・活用していた活動記録と地域資料で、平成24年度にご遺族から御寄贈いただきました。膨大な資料のうち、蓄音機と4万点近いSPレコードは貴重かつ特徴的な柱のひとつであり、今回の講演会のテーマといたしました。講演は、竹田仰・本学芸術工学研究院名誉教授に工学的な視点から、また、京谷啓徳・本学人文科学研究院准教授および大島久雄・本学芸術工学研究院准教授に文化芸術的な視点から、お話いただきました。開催日当日は期待以上のよいお天気となり、100名ほどのご皆様のご参加を賜りました(5ページの記事もご参照ください)。

前半の工学編では、聴覚の仕組みから音源再生の仕組みに至るまで、間に参考動画をはさみながらの解説、後半の文化・芸術編では、SPレコードのジャケットデザインや新譜に関するお話と浅草オペラについて(京谷先生)、

また、シェイクスピアの動画を交えた解説と田村コレクションのSPレコードの内容を俯瞰した解説(大島先生)がありました。1時間を予定していたクロストークの時間は15分と短くなってしまいましたが、有馬学・福岡市博物館館長から、包括的な資料の受け入れとその活用、とくに重複のあるSPレコードを保存することの



会場全体の様子。講演しているのは京谷先生



左上から：講師をつとめて下さった竹田仰先生・京谷啓徳先生・大島久雄先生・有馬学先生

必要性などについて、力強いご意見と課題提起がありました。

なお、この公開講演会に先立ち2月1日(水)からは、田村コレクションの概要について紹介するミニ展示



ミニ展示の一部

もスタートしました。講演会後のご意見やアンケートでは、継続的な上演会を希望する声が多々あり、今後も活用を広げて行くとともに、コレクションそのものの調査研究をすすめ、研究に供せられるデータベース公開など進めていきたいと考えています。

## シリーズ・九大博物館での研究の紹介

Series : Research at the Kyushu University Museum

特別寄稿

## 「九大百年 美術をめぐる物語」展を終えて

高山 百合 福岡県立美術館学芸員



青山熊治「九州大学工学部壁画」昭和7年

「九大百年 美術をめぐる物語」展を企画開催した担当学芸員として、感ずるところを少々述べたい。私事で恐縮だが、筆者も九大の大学院に8年在籍し、美術史の勉強をした。在学中より九大に伝わる美術作品を調査する機会もあったが、大学には、美術館のように明確な収集方針

のもとで集められた所蔵品とは異なる、誰が伝えたとも知れないものが様々な場所に数知れずあり、そのひとつひとつに「来歴」という無味乾燥な言葉では語り得ないユニークな物語がある。そのようにして何らかのご縁や理由で存在する作品や資料を、どのようなストーリーに落とし込み、展覧会にするかということについてはかなり頭を悩ませた。そんな中で、打ち合わせのために九大総合研究博物館に足繁く通い、青山熊治の堂々たる壁画の部屋に漂う独特の雰囲気や、学生時代とは異なる目で感じ取ったときに、美術作品だけではなく、広く「知」や「学問」も含めた、多種多様なものを引き寄せて包み込む

「場」、つまりは「文化的磁場」として、九大が果たしてきた大きな役割に思いを馳せるようになり、本展のメインビジュアルには、この場の象徴ともいえる「九大工学部壁画」とそれが置かれた部屋というカットを迷わず選んだ。

とはいえ、その後も様々な苦労が続いた。今回九大から借用した作品のほとんどは、美術館での鑑賞という目的を持つものではなく、それが置かれた場所から取り外すことを前提として管理されているわけではない。だからこそ、初めて学外で紹介する作品を本当に運び出せるのかどうかヒヤヒヤする場面がたくさんあったし、作品に積もった半世紀分ぐらいの埃を掃除しながら、九大がこの地で重ねてきた歴史の重みのようなものを感じたりもした。

なにより箱崎キャンパスからの完全移転を目前に、九大が所蔵する美術作品を含む貴重な歴史的資料の存続が危ぶまれるなかで、改めてその存在を社会に示し、価値づけることができたことは大きな意義であったのではないか。だからこそ、新たな地で次の百年を歩み始めた九大が、この先にどのような未来を描いていくのか、「九大二百年展」を見届けることはおそらくできないが、今後の動向を見守っていきたいと思っている。(p2. 報告記事参照)

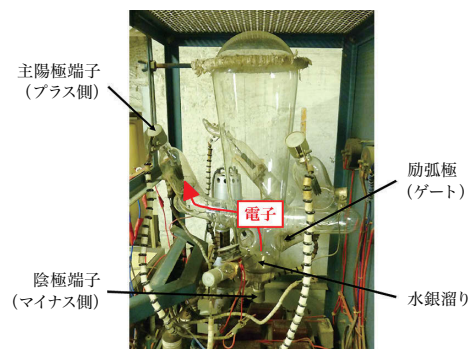
## COLUMN 博物館の活動

## 大学博物館協力事例から

担当: 秋山 肇 協力研究員

鹿児島大学総合研究博物館所蔵の直流電源に内蔵されている水銀整流器について共同調査を実施中です。水銀整流器は1905年に発明され、半導体整流器に世代交代するまでの約70余年間に亘って交直変換デバイスとして活躍してい

ました。九大においては後藤文雄博士が研究した論文類が残っています。鹿大にて現存が確認された直流電源は工学部で使用されていたものが同大博物館に移管されたものです。現在、水銀整流器を含む内蔵部品類に関する詳細情報の整理を進めています。近影写真をご覧頂くと、現役当時に「タコ」という愛称で呼ばれていた理由がお分かり頂けると思います。



水銀整流器近影(2015年5月26日筆者撮影)



## Series : Research at the Kyushu University Museum

シリーズ・九大博物館での研究の紹介

特別寄稿

## 宝珠山小劇場と田村悟史コレクション

有馬 学 福岡市博物館 館長・九州大学名誉教授 専門:日本近代史

2月4日(土)に「SPレコード&蓄音機の魅力」と題する公開講演会が、九州大学箱崎キャンパス旧工学部本館大講義室で開催された(p3.報告記事参照)。会場を盛り上げた約100名の来聴者のお目当ては、もちろん骨董家具のような典雅な蓄音機から流れるSPレコードの音色に驚嘆し、耽溺することだったに違いない。

だが筆者としてはそれだけではなく、会場にいた少なからぬ人々が、SPレコードコンサートを超えた何事かの存在を感じてくれたと想像したい。私が期待しているのは、モノとしての蓄音機やレコードコレクションが、そこに在るといふことの意味が共有されることである。



宝珠山小劇場時代のSPレコード(一部)

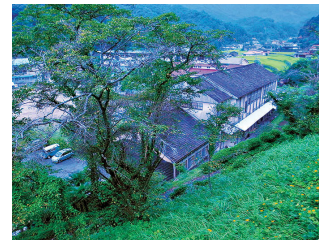
レコードも蓄音機も、旧主であった田村悟史(1940～2009)という人物の活動の結果、自ずと集積されたものである。それら田村氏の



宝珠山小劇場時代の蓄音機

の活動によって生成された資料(蓄音機やレコードはその一部にすぎない)のほぼ全ては、九州大学総合研究博物館に受け入れられた。そのことの意義は、いくら強調してもしすぎることはない。そして、それらの資料が織りなす文脈を言語化することは、これから田村コレクションを永続的に継承・保存し、活用していくための鍵である。

田村悟史氏は、旧宝珠山村(現東峰村)の廃校になった中学校に東京から移住し、そこを拠点として、映像制作をはじめとする多様な文化活動を続けた。企画・制作



日田彦山線の大行司駅から見下ろす宝珠山小劇場

集団としては手仕事舎、活動を包括する場としては宝珠山小劇場、そして手法として最も長く続いたのがSPレコード研究会である。

田村資料を見ていくと、それらの活動の全てにわたって、思いつきの段階からの詳細なメモや記録が残されているのに驚かされる。田村資料とは、ある人物の地域における

特異な文化活動を、自らアーカイブしたものに外ならない。コレクションを博物館が受け入れるのは、特に珍しいことではない。しかし田村コレクションに関しては、旧蔵者自らのアーカイビングによって形成された文脈を解きほぐし、再解釈していくという、チャレンジングだが難しい、メタレベルの作業が要求されるのである。

宝珠山小劇場には、音楽批評から文芸評論、社会時評まで幅広く活躍される片山杜秀氏も来演された。写真はシンポジウムでコメントする片山氏(2008年9月14日)



## Series : OIKAKETE

シリーズ・追いかけて

九州大学歴史的備品再生プロジェクトについて  
—九大の歴史を語る什器たちを追いかけて—

吉田 茂二郎 九州大学総合研究博物館第7代館長



レスキューされた工学部の什器群

私が九州大学総合研究博物館の博物館長に就任したのは、今から4年前に遡る。農学部からは、これまで初代の湯川先生をはじめ、代々昆虫分野の先生方が務めてこられていたので、森林しかも森林の取り扱いを専門とする私が何故と驚かれた方もおられたことでしょう。

私は館長に就任する前から、大川家具の有志の方々と共に、農学部が設置された大正8(1919)年以降に購入され、今でも利用されている古い木製机類の修復・利用を進めていた。その頃、博物館は、工学部が伊都へ移転する際に大量の古い木製家具類(什器)の廃棄に直面し、それらのレスキューに奔走し、旧工学部本館の地下室にレスキューした木製什器を順次保管していった。そのような状況で、私が館長に就任し、博物館として正式に古い木製什器を体系立って集めること、つまり九州大学歴史的備品再生プロジェクトが始動した。このプロジェクトの一環として、学会等で全国の大学に行った折に、そこに残っている歴史的什器調査を始めたが、結局大量に歴史的什器が残っているのは九州大学だけであるということがわかった。なぜなら、九州大学箱崎キャンパスの戦後の建物は、

昭和30年代後半～40年代に作られており、その時期はまだ学部設置当初に購入された木製の什器が使える状態であったため、そのまま新しい建物で使用が継続されたからである。さらに、キャンパスの伊都移転が決まっており、古い建物の耐震補強も外側からの簡易施工であったため、部屋を移動する必要がなく、室内のものがほとんど廃棄されなかったという経緯がある。館長に就任して以来、多くの大学や重要文化財の建物を見て回ったが、そのほとんどで建設当時の什器類はすでに無いか、あるいは

次の時代の利用者の新しい什器が並んでいた。このことから、本大学の歴史的什器は他に類をみないものであるということがわかったのである。さらに、全てのものが備品番号で管理され、現在までその記録が保存されているために、その購入年月日や価格が明らかでないことも他にはない大きな特徴である。そのことがわかって以来、九大に残っている歴史的什器群は、これまでのカテゴリーにない室内の重要文化財ではないかと考えるようになり、昨年(H28)9月の理学部の伊都キャンパスへの移転では、博物館の総力をあげて歴史的什器を収集した。集めてみると、工学部や農学部のものとは

農学部設置時に購入された教授用机  
(上:修復前、下:修復後)

## Event & Exhibition Info.

### 催事予告

#### 福岡市ミュージアムウィーク2017関連展示と開学記念事業 骨を識る

期間：2017年5月13日(土)～21日(日) ※21日は閉館

会場：常設展示室

全く異なっていた。それは、理学部が設置された時代は、昭和14年という第2次世界大戦開戦直前であり、当時全ての物資が経済統制下にあり、その戦時下の状況を反映した結果と考えられる。追いかければ追いかけるほど、色々なことが明らかとなっていく歴史的什器類は、非常に貴重なものであり、今後当博物館の重要な収蔵品の一つになると確信している。



歴史的什器の宝庫(旧工学部本館・総合研究博物館)

次のターゲットは、来年夏に移転する文系学部、農学部と事務部である。特に農学部の場合は、工学部の設置より少し遅れるが、大正8～11年の3基幹学科設置と同時に什器が購入されている。農学部の什器は工学部とほぼ同時代のもので、かつ学部規模が工学部の次に大きい。そのため、歴史的に古くかつ大量の什器が収集できる可能性がある。農学部の歴史的什器を工学部で収集したものと合わせることで、歴史的什器類は、さらに体系だった重要な収蔵品になるであろう。農学部では一世代前の備品番号がデータベース化されており、歴史的什器の履歴がどの学部よりも明確かつ詳細な点も見逃せない。再来年の今頃には、全体の移転が完了している予定だが、大学が新しい地に定着していく中で歴史的什器群の価値が徐々に認められていくことを心から願ってやまない。



ハリモグラ

様々な分野にわたって、総合研究博物館が所蔵する日本有数の資料を公開します。是非ご来場ください。

5/13(土) ◎開学記念事業 博物館関連全施設一般公開

本館：4階会議室、3階常設展示室・列品室

第3分館：動物骨格標本室、貴重地質・鉱物標本室

◎地質の日記念企画

前田晴良教授による解説【化石化のメカニズムを探る】

時間：10:00～/11:30～/13:30～/15:00～(毎回約30分)

5/14(日)・20(土) ◎本館3階常設展示室、

第3分館(動物骨格標本室、貴重地質・鉱物標本室)一般公開

特典

ミュージアムウィーク期間中の来場者には来場者特典あり! <

## Personnel Changes

### 人事往来

#### 着任・退職

事務補佐員の佐藤愛は、

平成28年12月31日限りで退職いたしました。

平成29年1月1日付けで、

森崎美樹が事務補佐員として着任いたしました。

# Activities of Exhibitions & Conferences

## 展示・講演会関係の活動状況

### 公開展示

- 九大百年 美術をめぐる物語  
期間:平成28年10月8日(土)～11月13日(日)  
場所:メイン会場:福岡県立美術館  
サテライト会場1:九州大学総合研究博物館  
サテライト会場II:九州大学医学歴史館  
主催:福岡県立美術館、九州大学総合研究博物館  
共催:九州大学医学歴史館、九州大学大学院人文科学研究院、九州大学文学書庫  
協力:九州大学大学院医学研究院

### 公開展示関連事業

- 連続セミナー「九大百年」  
期間:第1回 28年10月22日(土)  
第2回 28年11月 5日(土)  
場所:福岡県立美術館4階視聴覚室
- ミュージアムカフェ「音楽と美術の夕べ」  
ー青山熊治(九州大学工学部壁画)特別鑑賞会ー  
期間:第1回 28年10月21日(金)  
第2回 28年11月11日(金)  
場所:九州大学旧工学部本館4階会議室

### 公開講演会

- SPレコード&蓄音機の魅力 ー田村悟史コレクション初披露日ー  
期間:平成29年2月4日(土)  
場所:九州大学箱崎キャンパス旧工学部本館1階 大講義室  
主催:九州大学総合研究博物館  
協力:九州大学芸術工学研究院、九州大学人文科学研究院、福岡市博物館、一般社団法人ミュージアム支援者協会

### 特別展示

- 田村悟史コレクション初披露日  
期間:平成29年2月1日(水)～継続中(年度末くらいまでを予定)  
場所:九州大学総合研究博物館常設展示室  
主催:九州大学総合研究博物館

### 展示協力

- 石ふしぎ大発見展2016第28回京都ショー  
期間:平成28年10月8日(土)～10日(月)  
場所:京都市勧業館「みやこめっせ」  
主催:公益財団法人益富地学会館  
石ふしぎ大発見展実行委員会

### 学内連携事業

- 中央図書館シリーズ展示「標本にみる九州大学の研究」  
第七弾「九州大学の昆虫標本 part4」  
期間:平成28年10月27日(木)～継続中  
場所:中央図書館(箱崎)2階エントランス常設展示コーナー
- 理学部エントランスホール展示(博物館担当部分)  
「総合研究博物館 エントランス展1」  
期間:平成28年2月17日(水)～12月14日(水)  
場所:伊都キャンパスウェスト1号館エントランスホール

### テレビ出演

- RKB毎日放送  
「新窓をあけて九州 虫めがねの先に見えるもの  
～昆虫学者・丸山宗利～」  
(丸山宗利)  
平成28年11月27日(日)
- KBC九州朝日放送  
「アサデス。バリ熱ワード  
超人気!! 売り切れ続出の自撮りライト」  
(丸山宗利)  
平成29年1月11日(水)

### 教育支援

- 山口県立宇部高等学校  
スーパーサイエンスハイスクール(SSH)事業  
ハローサイエンス 国内科学研修  
期間:平成28年12月12日(月)、13日(火)  
場所:九州大学総合研究博物館

### 講演・セミナー

- 正倉院学術シンポジウム2016  
「奈良時代平瓦から見た正倉院正倉」  
(岩永省三)  
期間:平成28年11月3日(木)  
場所:奈良国立博物館  
主催:奈良国立博物館  
後援:読売新聞社
- アフタヌーンセミナー in 福岡  
「アンモナイトの死骸は浮かぶか?」  
(前田晴良)  
期間:平成28年11月11日(金)  
場所:アクロス福岡円形ホール  
主催:山口大学時間学研究所
- 公開考古学講座  
「人類学から明かされる金井遺跡群に生きた人々」  
(米元史織)  
期間:平成29年2月18日(土)  
場所:群馬会館ホール  
主催:群馬県教育委員会・公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 理科読シンポジウム  
「広がる好奇心・深まる好奇心」  
(丸山宗利)  
期間:平成29年2月25日(土)  
場所:東海大学代々木キャンパス 4号館5階講堂  
主催:NPO法人ガリレオ工房
- 朝日カルチャーセンター 朝日JTB・交流文化塾  
「アリの巣をめぐる冒険紀行」  
(丸山宗利)  
期間:平成29年2月26日(日)  
場所:朝日カルチャーセンター湘南  
主催:朝日カルチャーセンター
- 鹿児島県立楠中学校  
「フロントランナーとの出会い(九州大学研修)」  
(丸山宗利)  
期間:平成29年3月7日(火)  
場所:箱崎キャンパス旧工学部本館2階第4講義室  
主催:鹿児島県立楠中学校

## Others

### その他の活動状況

### 運営委員会

平成28年11月 7日(書面回議)  
平成28年11月30日  
平成29年 1月18日  
平成29年 2月14日

### 団体見学

平成28年10月19日(水) 春日市文化財課(仮国の丘歴史資料館) 32名  
平成28年11月11日(金) 宗像市アートボランティア 15名  
平成28年12月 7日(水) 鵬翔中学校(宮崎県) 68名

## 総合研究博物館ウェブコンテンツの紹介

九州大学総合研究博物館では、公式ウェブサイトの他にも、様々なウェブサービスを活用して最新情報やコンテンツを発信しています。ぜひアクセスしてみてください。

- 公式HP <http://www.museum.kyushu-u.ac.jp>
- Facebook  
日本語 [facebook.com/KyudaiMuseum](https://www.facebook.com/KyudaiMuseum)  
英語 [facebook.com/TheKyushuUniversityMuseum](https://www.facebook.com/TheKyushuUniversityMuseum)
- Twitter [twitter.com/Kyudai\\_Museum](https://twitter.com/Kyudai_Museum)
- Vimeo [vimeo.com/KyudaiMuseum](https://vimeo.com/KyudaiMuseum)
- Flickr [flickr.com/KyudaiMuseum](https://www.flickr.com/photos/KyudaiMuseum/)

※本誌の内容、およびバックナンバーは本館ウェブサイトの「出版物・教材」からもご覧いただけます。